

Ⅱ 家庭生活等

1 「男は仕事、女は家庭」という考え方

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。（○は1つだけ）

全体では、「賛成」（2.4%）、「やや賛成」（11.3%）を合わせて『賛成である（計）』は13.7%となっている。一方、「あまり賛成しない」（25.0%）、「賛成しない」（29.9%）を合わせた『賛成しない（計）』は54.9%となり、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を41.2ポイント上回っている。「どちらともいえない」は28.0%となっている。

女性では、『賛成である（計）』は9.6%、『賛成しない（計）』は58.5%となり、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を48.9ポイント上回った。

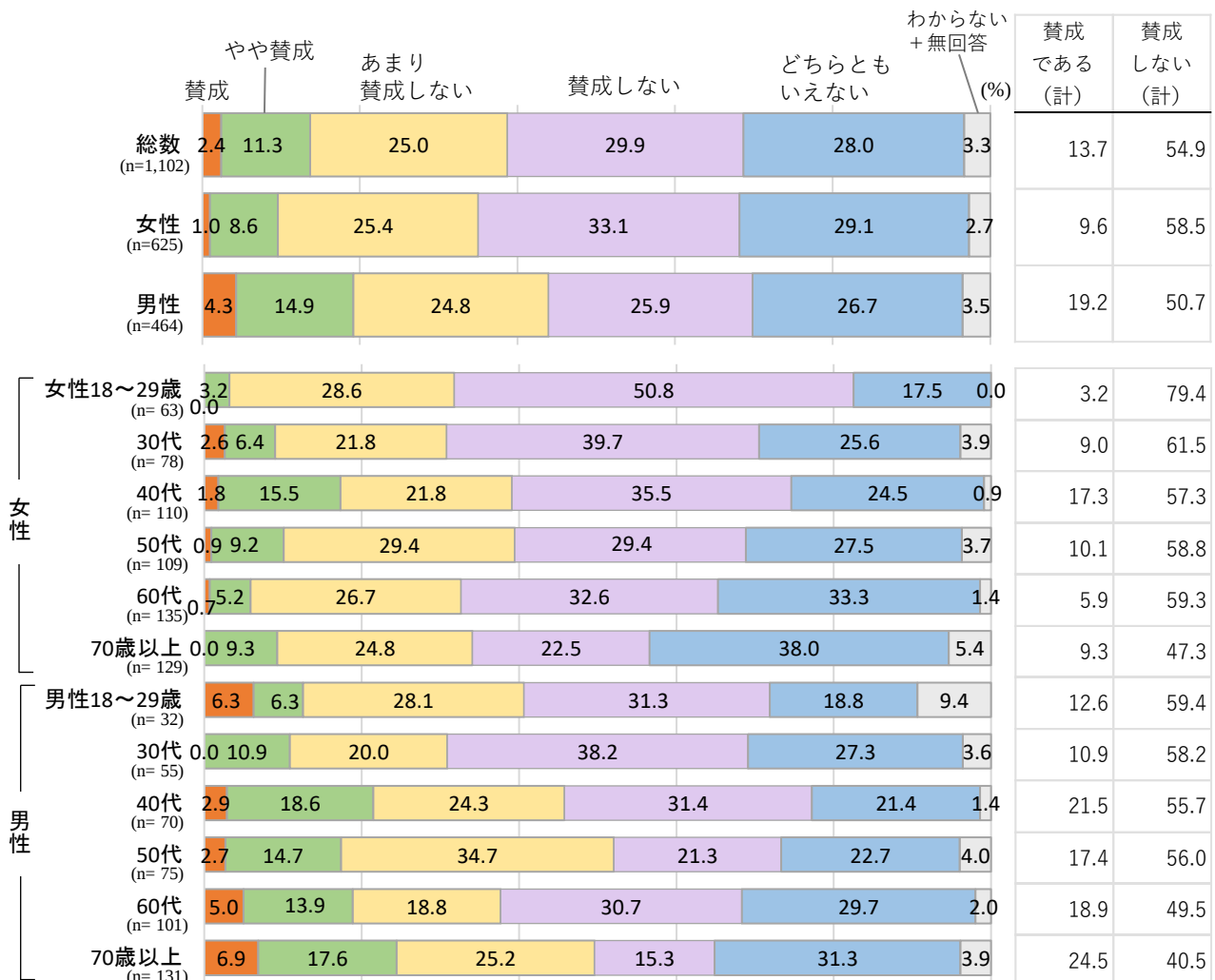
男性では、『賛成である（計）』は19.2%、『賛成しない（計）』は50.7%となり、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を31.5ポイント上回っている。

【性×年代別】

女性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。18～29歳で『賛成しない（計）』（79.4%）が『賛成である（計）』（3.2%）を76.2ポイント上回っている。『賛成しない（計）』は70歳以上（47.3%）が最も少ない。

男性でも、全ての年代で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。30代で最も『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を大きく上回っており、47.3ポイント差となっている。

図2-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方（性別、性×年代別）

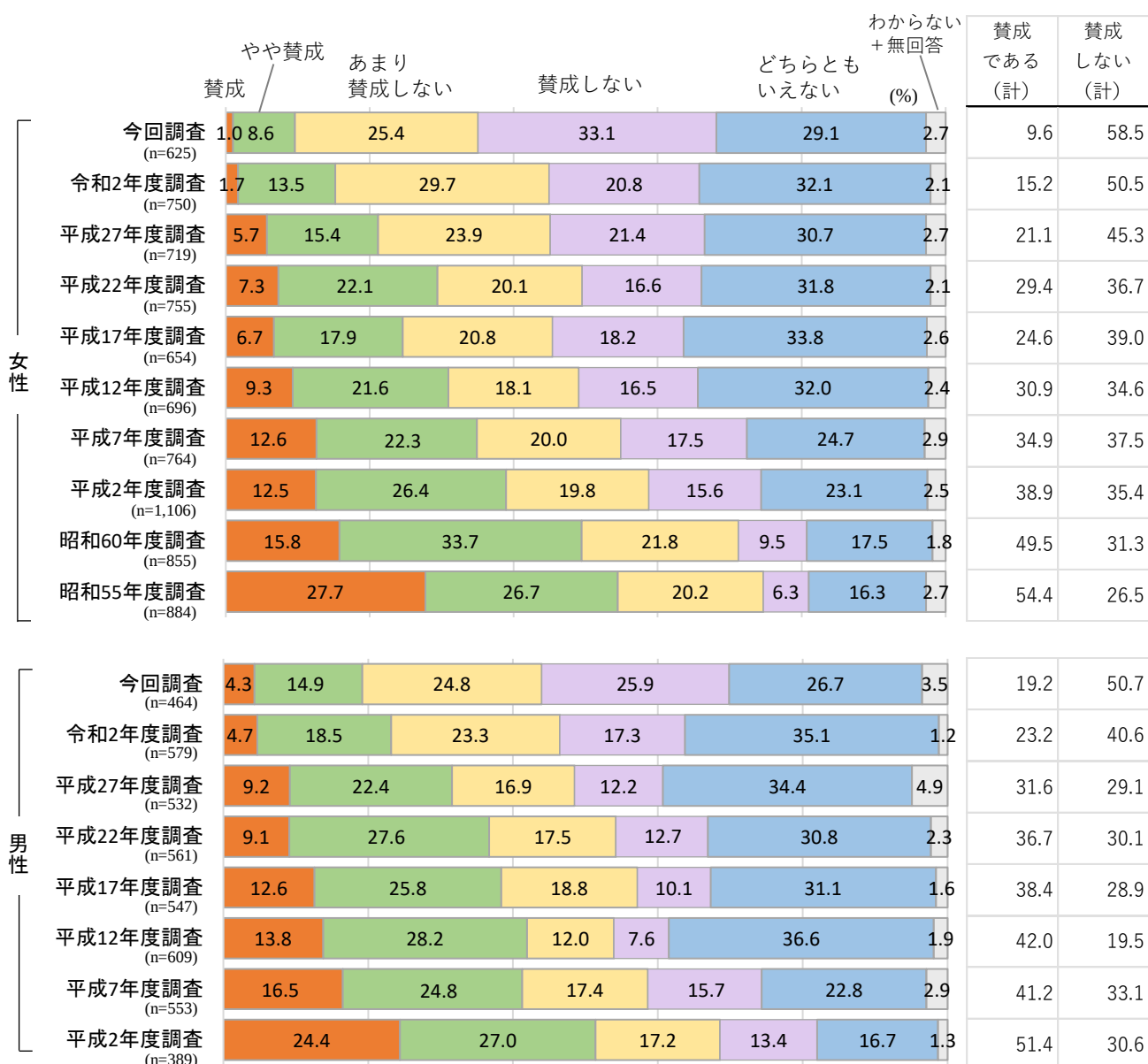


【経年比較】

過去の調査結果と比較すると、女性では、『賛成である（計）』は昭和55年度から減少傾向にあり、今回調査でも引き続き減少している。平成2年度までは、『賛成である（計）』が『賛成しない（計）』を上回っていたが、平成7年度以降は『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、その差は今回調査で48.9ポイントと最も大きくなった。

男性でも、『賛成である（計）』は平成12年度以降減少を続け、令和2年度調査で、初めて『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、その差は今回調査で31.5ポイントとさらに大きくなった。

図2-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方 【経年比較】

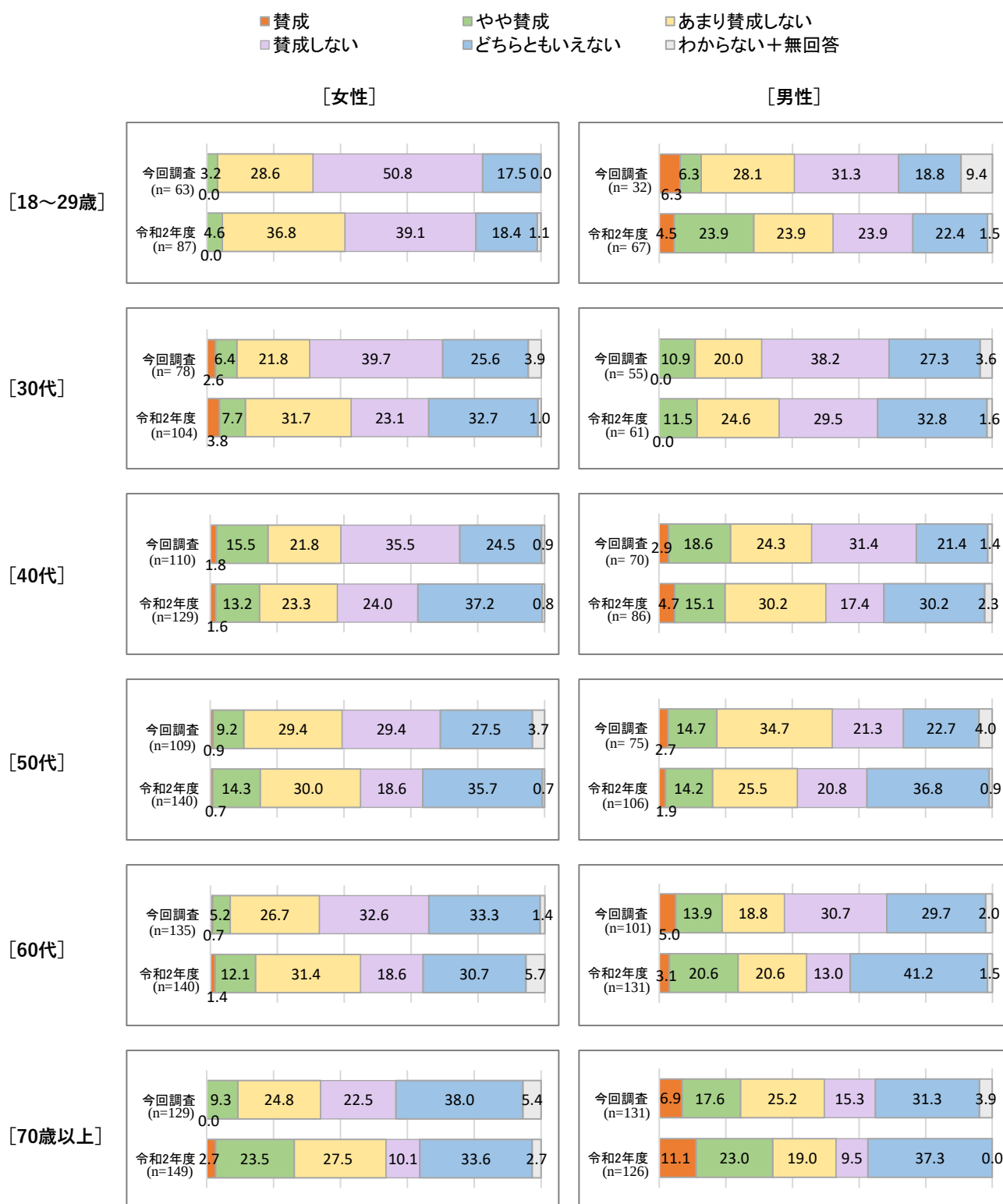


【令和２年度調査との年代別比較】

年代別に比較すると、女性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が増加し、50代（10.2ポイント）と40代（10.0ポイント）で10ポイント以上増加した。

男性でも、全ての年代で『賛成しない（計）』が増加し、60代（15.9ポイント）、70歳以上（12.0ポイント）、18～29歳（11.6ポイント）で10ポイント以上増加した。

図２－３ 「男は仕事、女は家庭」という考え方 【令和２年度調査との性×年代別比較】



2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由

問2-1 【問2で「1. 賛成」「2. やや賛成」と答えた方にお聞きます。】
 そう思うのはなぜですか。（〇はいくつでも）

【性別】

「家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは大変だから」では、男性（40.4%）より女性（71.7%）の方が31.3ポイント多くなっている。

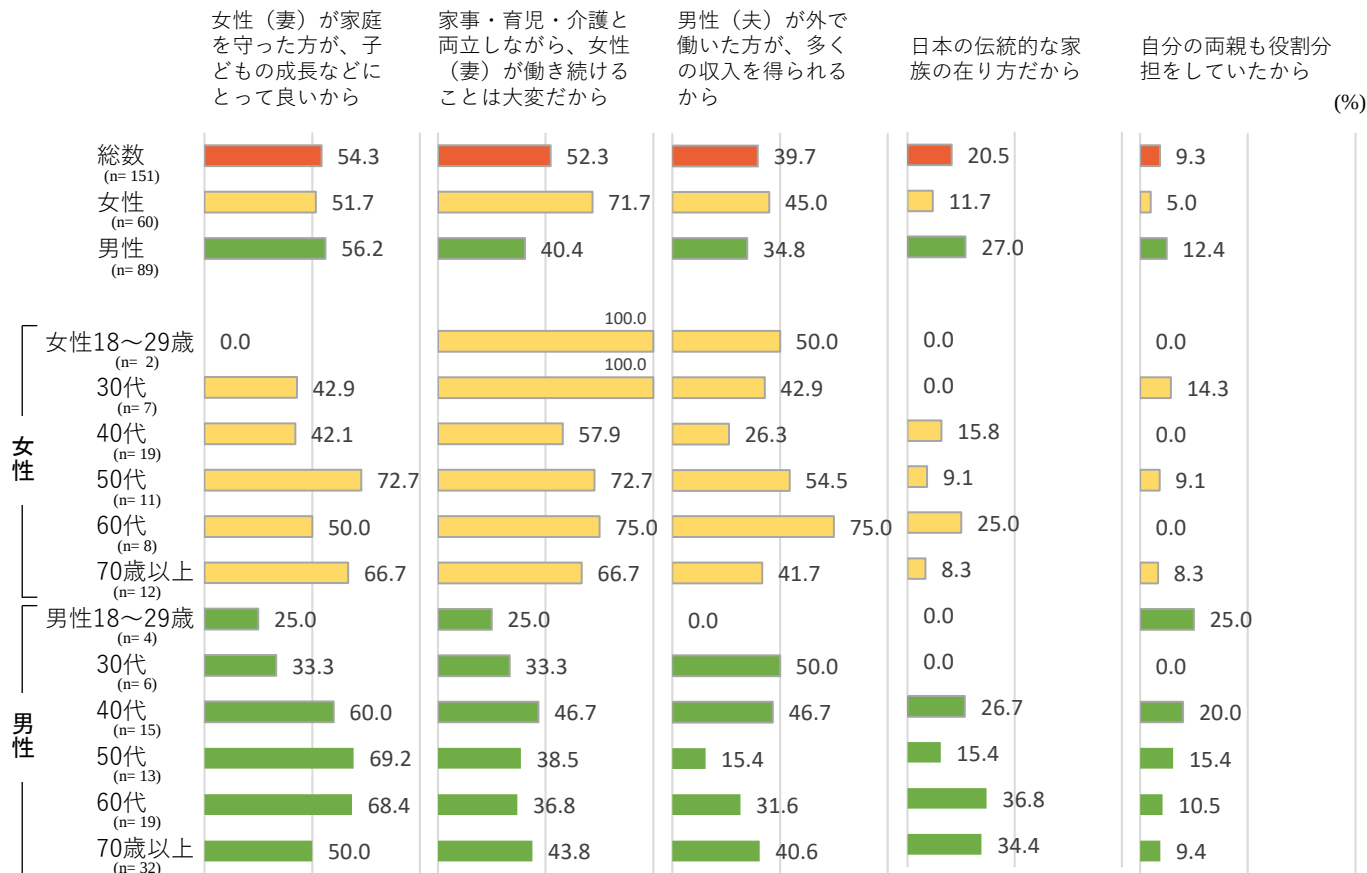
【性×年代別】

女性については、母数が10名未満の年代が多く含まれるため、年代別の傾向はコメントしない。

男性について、「女性（妻）が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いから」は40代から60代で60%を超えている。

※男女の18～29歳、30代および女性の60代については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

図2-1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由（性別、性×年代別）



3 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由

問2-2 【問2で「4. あまり賛成しない」「5. 賛成しない」と答えた方にお聞きます。】
 そう思うのはなぜですか。（○はいくつでも）

【性別】

「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が女性（77.6%）、男性（59.1%）とともに最も多く、女性の方が18.5ポイント多くなっており、男女の差としても最も大きい。

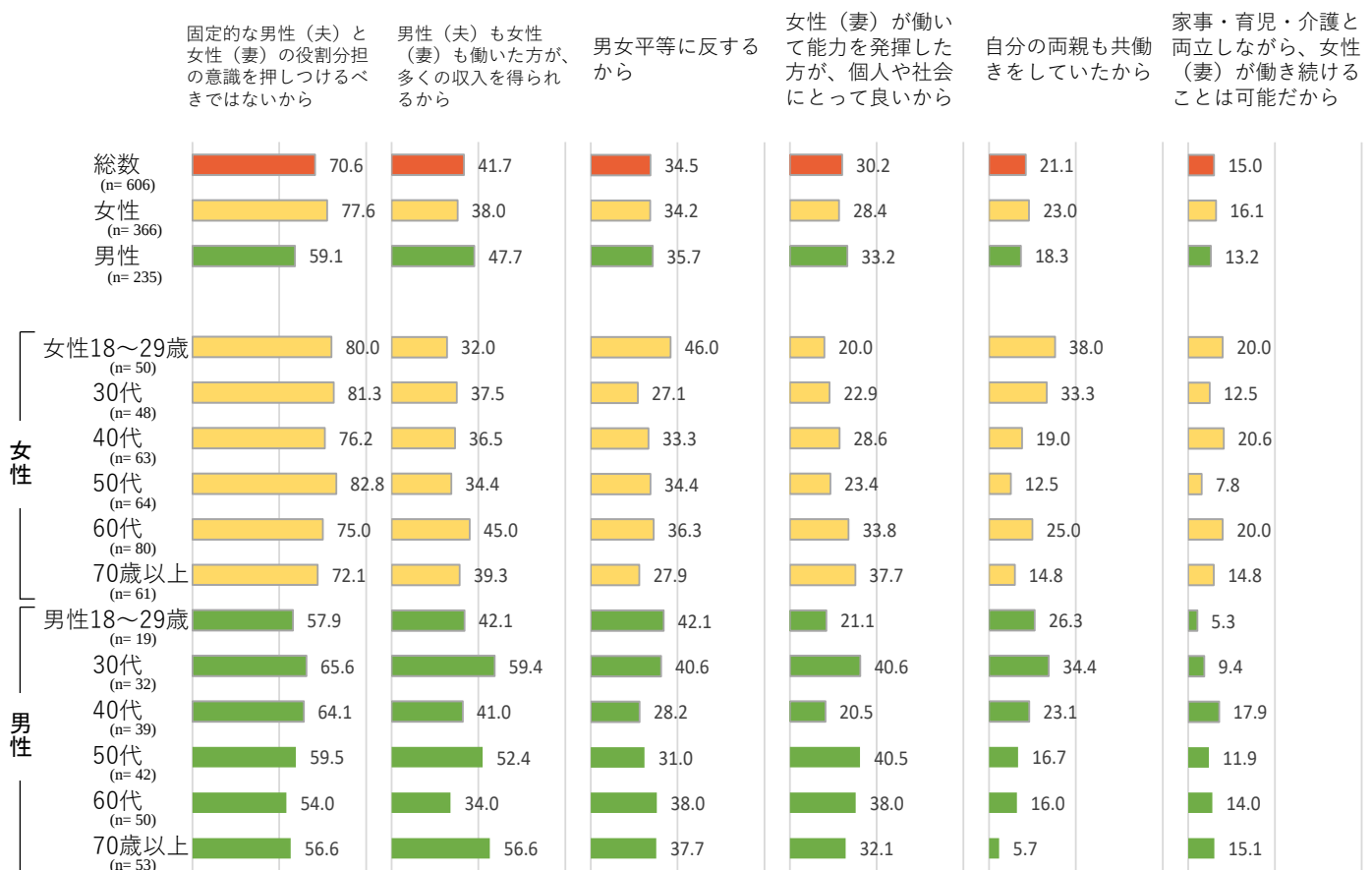
また次に男女の差が大きいのは、「男性（夫）も女性（妻）も働いた方が、多くの収入を得られるから」で、女性（38.0%）、男性（47.7%）と男性の方が9.7ポイント多くなっている。

【性×年代別】

女性では、全ての年代で「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。18～29歳で「男女平等に反するから」（46.0%）が他の年代より多くなっている。

男性においても、全ての年代で「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。18～29歳と30代で「男女平等に反するから」が4割を超え、他の年代より多くなっている。

図2-1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由（性別、性×年代別） (%)



4 男性が家事・育児を行うことのイメージ

問3 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(○はいくつでも)

全体では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(65.5%)が最も多く、次いで「子どもに良い影響を与える」(56.4%)が続いている。他は半数を下回っている。

男女とも「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(女性69.9%、男性60.3%)が最も多く、次いで「子どもに良い影響を与える」(女性65.3%、男性44.6%)が続いている。

男女の差が大きいものとしては、「子どもに良い影響を与える」(20.7ポイント差)、「家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」(10.0ポイント差)が女性のポイントが高い一方で、「家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている」(10.7ポイント差)は男性のポイントが高くなっている。

【性×年代別】

女性では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」は18～29歳(87.3%)、30代(78.2%)、50代(74.3%)で最も多く、「子どもに良い影響を与える」は60代(71.9%)、70歳以上(61.2%)で最も多い。(40代は同率68.2%で最も多い)

男性では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」がいずれの年代でも最も多くなっている。

図3-1 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧(性別)

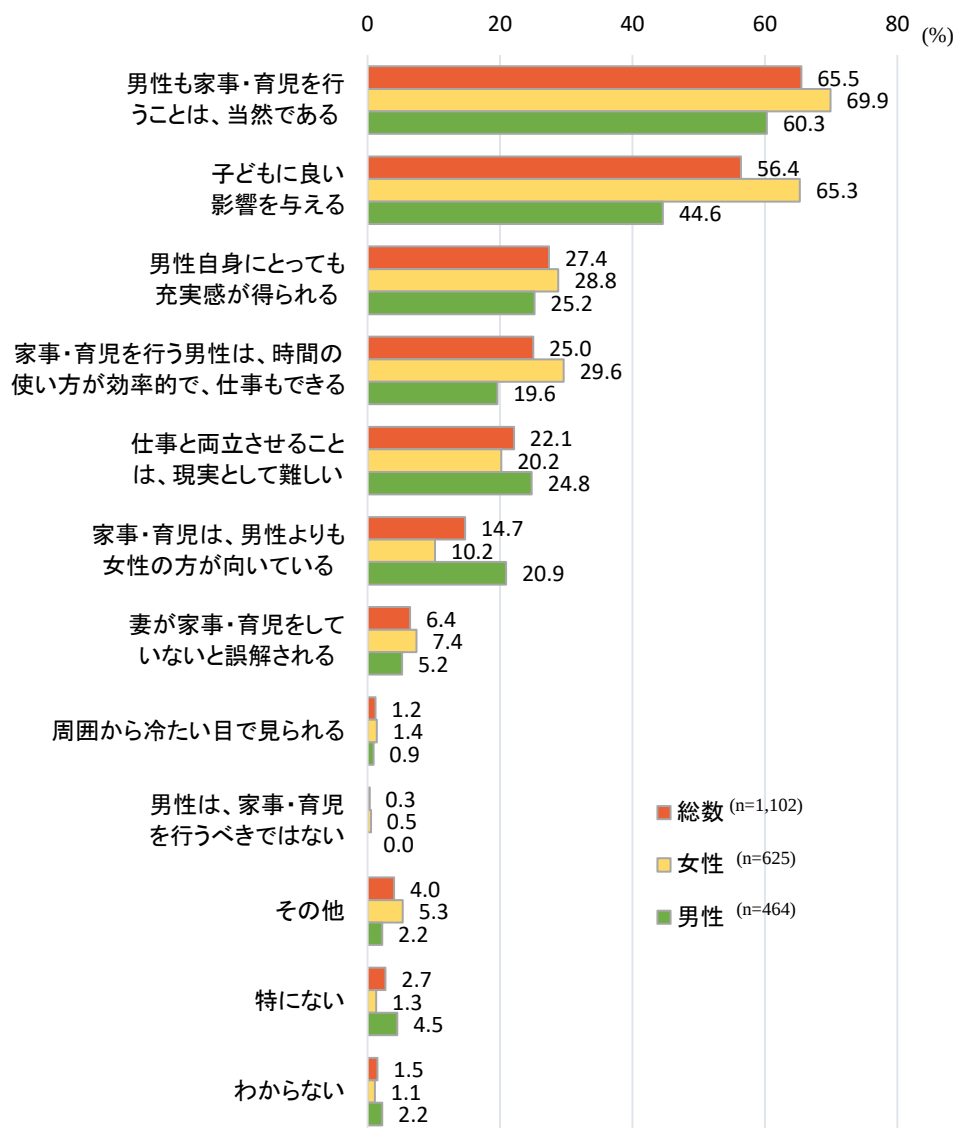
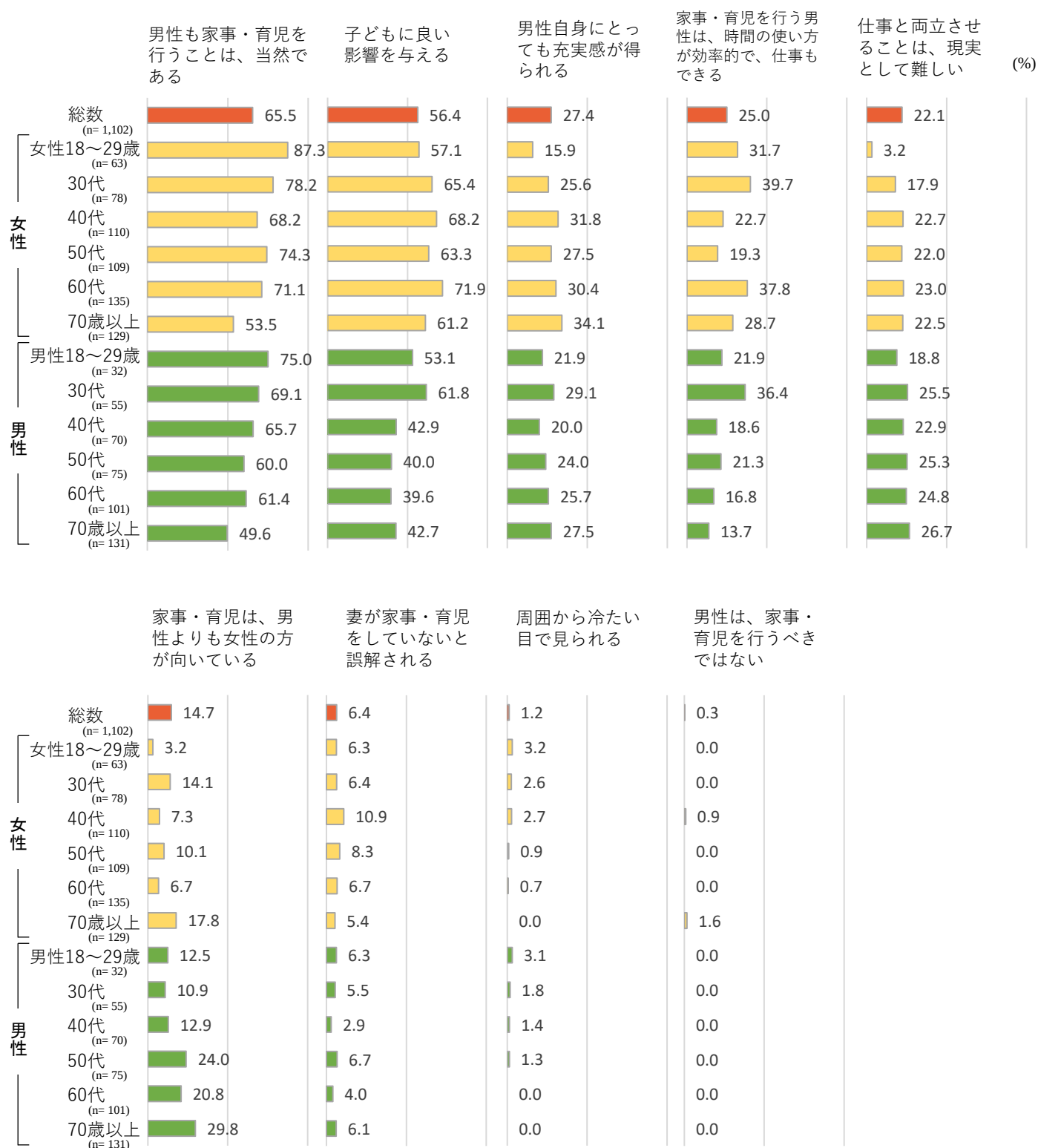


図3-2 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧（性×年代別）



5 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと

問4 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

全体では、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」（63.2%）が最も多く、次いで、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」（59.7%）、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（57.5%）が続いている。

男女の差は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が最も大きく、女性の方が20.8ポイント多くなっている。

【性×年代別】

女性では、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」は50代を除き、すべての年代で最も多い。50代では「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も多い。

男性では、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」は40代（61.4%）、70歳以上（60.3%）、18～29歳（59.4%）で最も多く、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」は60代（60.4%）、30代（54.5%）、50代（49.3%）で最も多い。

図4－1 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと 項目別一覧（性別）

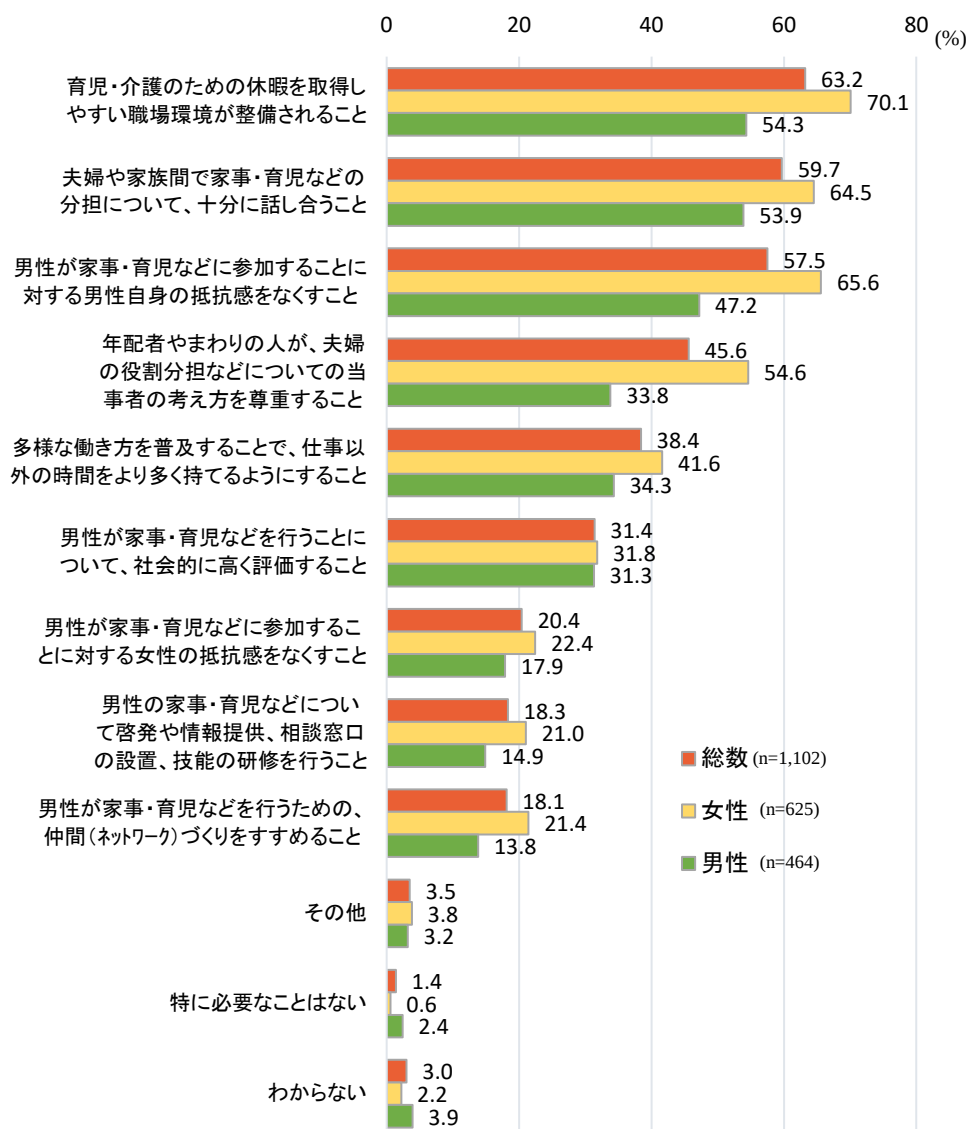
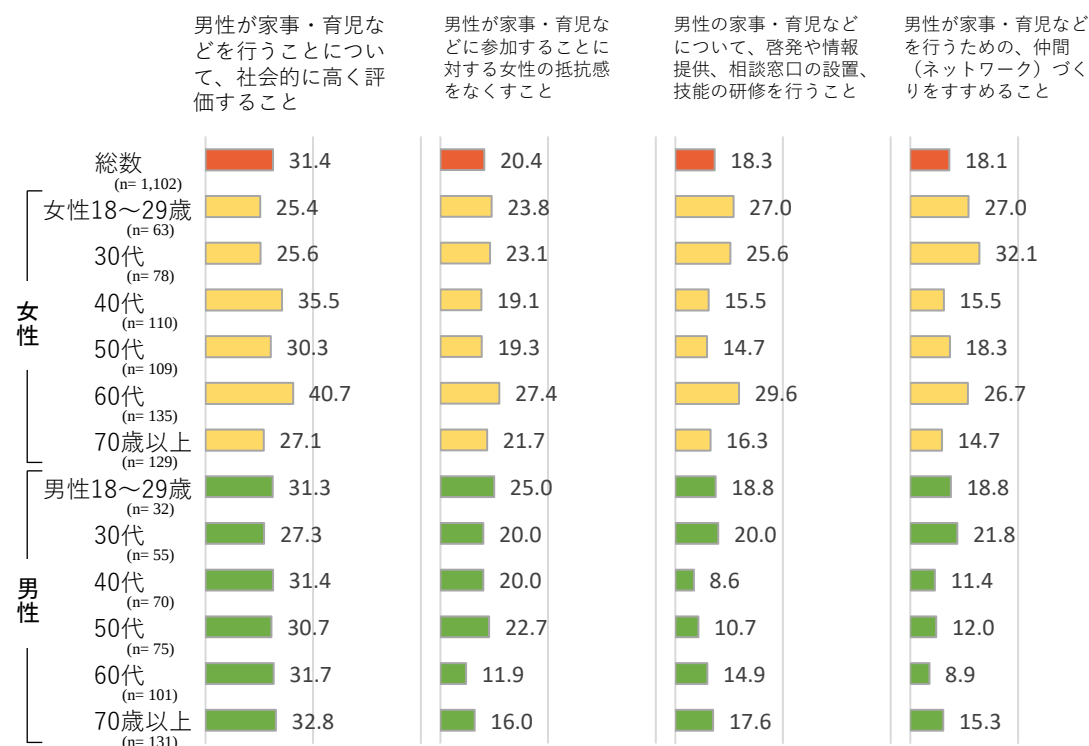
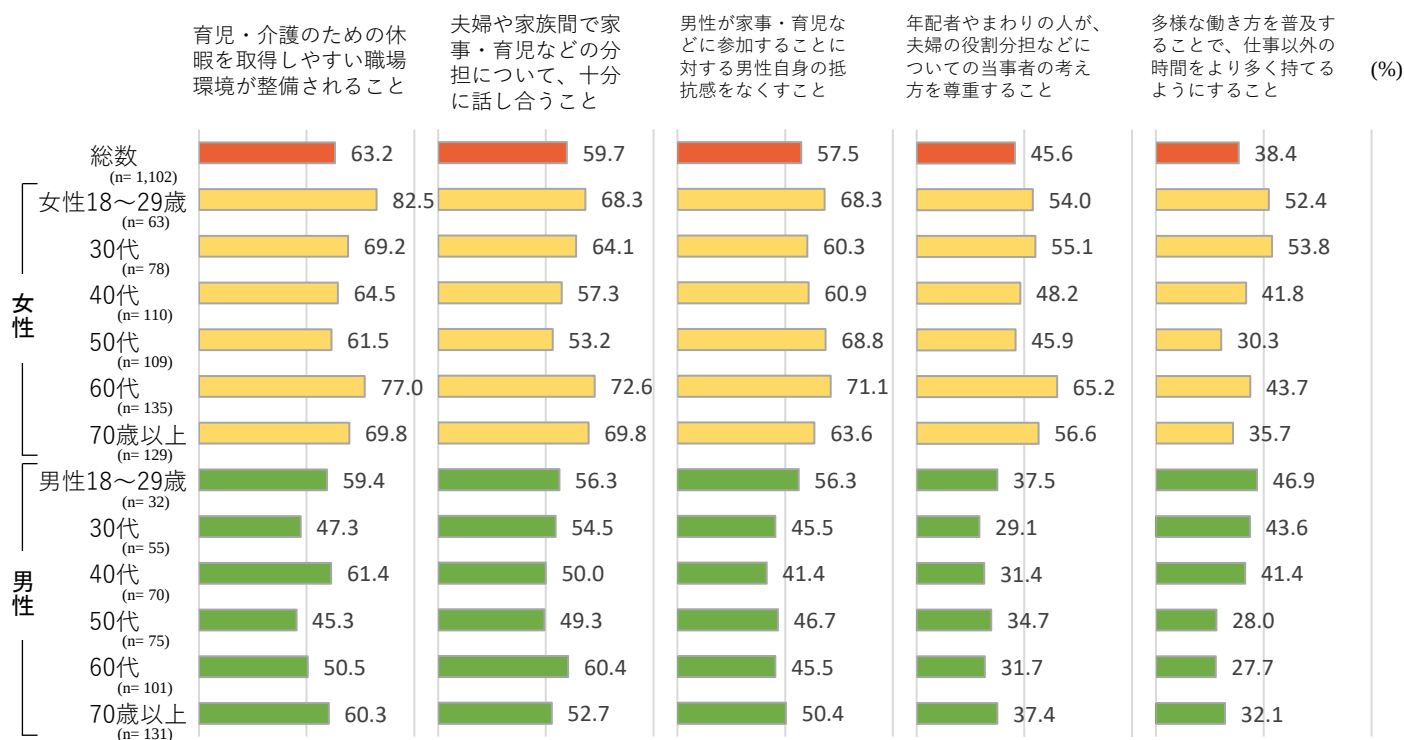


図4-2 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと 項目別一覧（性×年代別）



6 親の介護における役割分担

問5 あなたは、親が介護を要する状態となった場合、あなたと配偶者でどのように分担したい（したかった）と思いますか。訪問介護など外部サービスの利用も含め、自分の親の介護、配偶者の親の介護、それぞれについて、あなたの考えに最も近いものの番号に1つつ〇をつけてください。なお、配偶者のいない方も、配偶者がいることを想定してお答えください。（〇はそれぞれ1つ）

（a）自分の親の介護

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（37.1%）が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（女性44.0%、男性27.8%）が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」（女性19.7%、男性36.4%）が男性で最も多い。

【性×年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」は全ての年代で最も多くなっており、50代（56.9%）で5割を超えている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」が40代より上の年代で、30代以下の年代では「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」が最も多い。

図5－1 親の介護における役割分担 （a）自分の親の介護（性別）

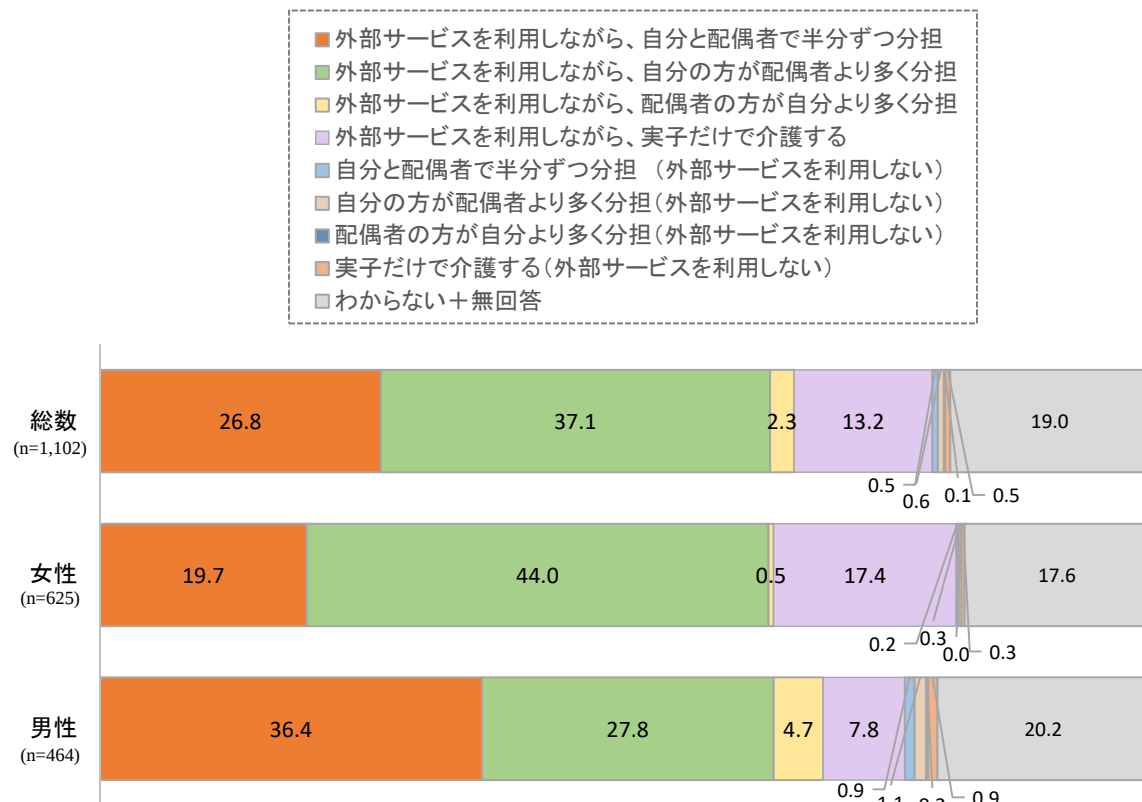
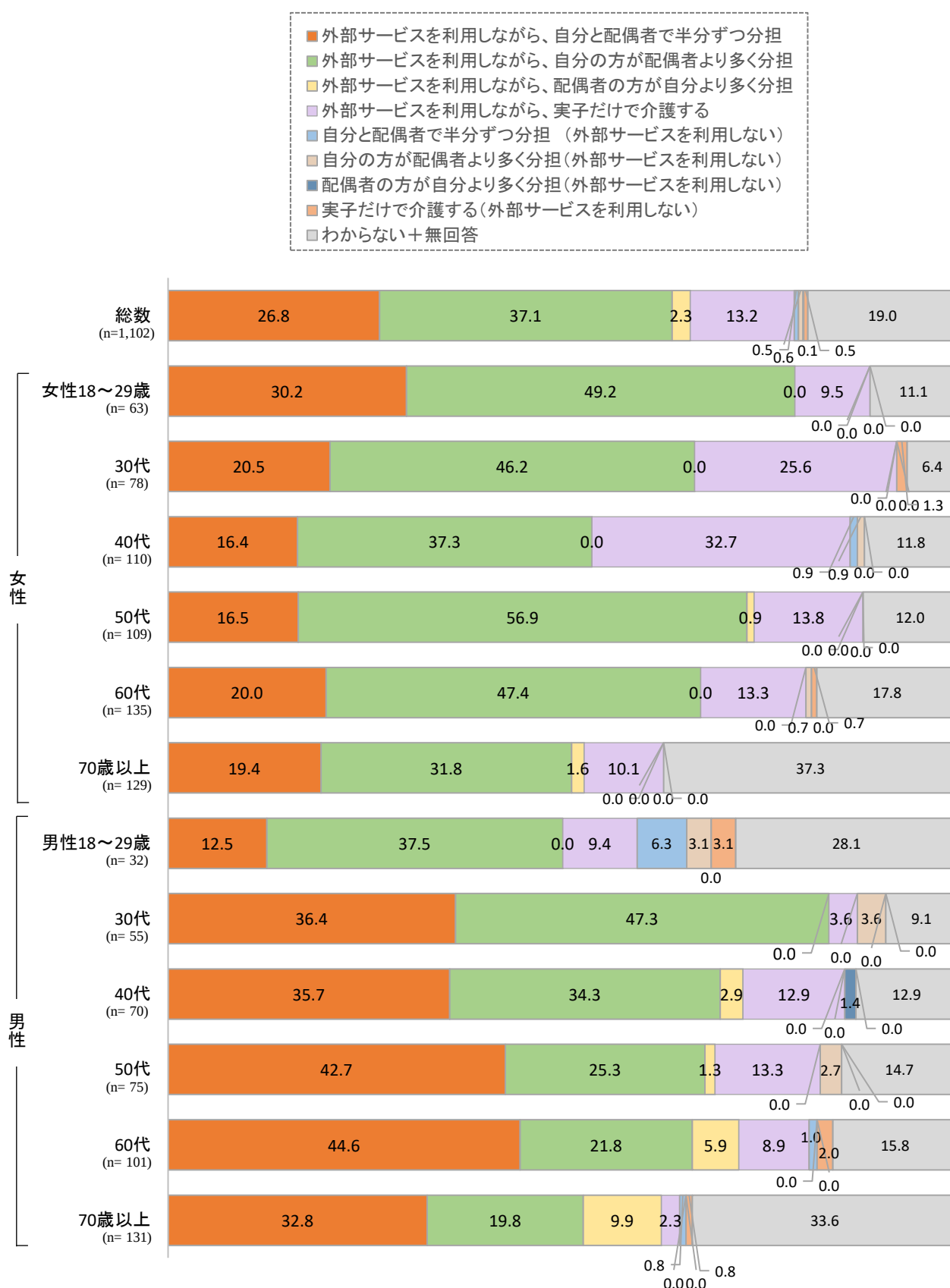


図5－2 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護（性×年代別）



(b) 配偶者の親の介護

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(33.4%)が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(女性36.3%、男性29.7%)が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」(女性24.5%、男性30.2%)が男性で最も多い。

【性×年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は全ての年代でも最も多くなっている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は18~29歳、40代、60代、70歳以上で、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は30代と50代で最も多くなっている。

図5-3 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護(性別)

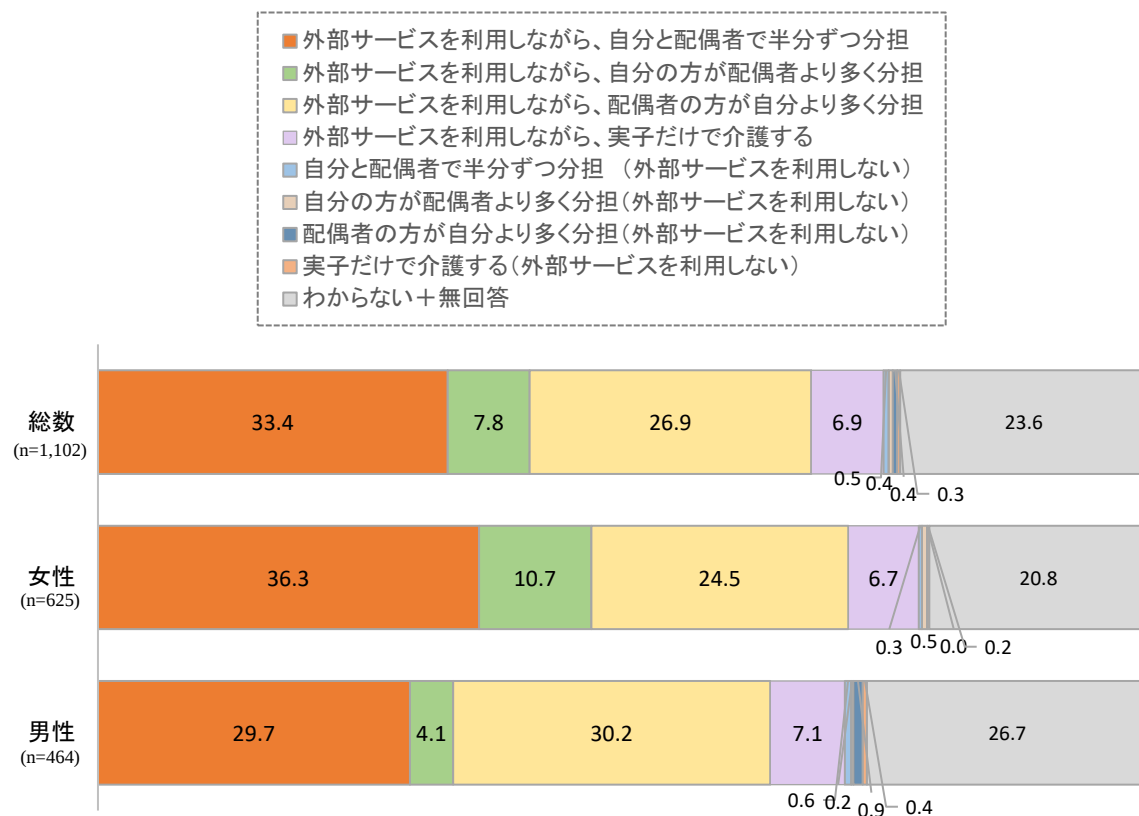


図5－4 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 (性×年代別)

